

## 農園ごよみ

5月 今年、スリランカも天候不順で、開花の時期に珍しく雨が降り、花が落ちてしまったため、どこの農園も軒並み収穫が少なく、スバ・ランカ農園の初めての収穫も20キロほどでした。それに加えて、整備が十分ではなく、5月中旬に農園に行ったときには、雑草が伸び放題という状態でした。

6月 そこで、6月から農園管理者を変えました。名前をチャンダヤといいます。今までは月々の給料を出していなかった点を反省し、毎月、給料を支払うことにしました。

8月 8月の末にスバ・ランカ協会主催のスリランカ・ツアーの方々、12名が農園を訪ねてくれました。そのときには、雑草はきれいに刈られ、野菜の植え付けも行われ、見違えるほど農園らしくなっていました。これには、チャンダヤの努力が最大ですが、スリランカ現地協力者の一人であるチャミット（ジャヤマガ幼稚園・塾の理事長）とその生徒たちがボランティアで手伝ってくれたことも大きな力となりました。

10月 私が帰国する直前に、中古ですが、クボタの耕運機を買うことができました。これはスリランカ滞在の日本人ボランティアの寄付によるものです。下草の生育が激しく、手で取っていたのでは追いつかない状況でしたので、無理をお願いしてお金をいただき、購入しました。チャンダヤのうれしそうな笑顔が印象的でした。これで、来年の収穫に向けて、よい準備ができました。カシューナッツの収穫は毎年3月から5月にかけてです。

## カシューナッツの配布

当初はオーナーの方へのお礼として、カシューナッツ500gを予定しておりましたが、オーナーは170名(新規の方26名)となり、総量85キロが必要となりました。今回は、前にも述べましたが、収穫は、20キロほどでした。この収穫にあわせてお届けすると、お一人に120gが精一杯です。これでは初年度から大変申し訳ないことになるかと悩んだ末、今回は、何とか皆さまに400gをお届けしたいと考え、近在の加工工場から50キロを買い足しました。このような次第ですので、今回は申し訳ありませんが、400gでお許してください。また、今後このような収穫になりますと、いつも不足分を協会会費でまかなうことはできませんので、来年以降は、収穫量に合わせてお届けしたいと思っています。この点、ご了解いただければありがたいです。

## 今後の課題

(1) 国内外の輸送費をどのようにするかが課題です。今回は、ツアーの方々、日本に来るスリランカ人、われわれ夫婦が70キロを持参しました。

(2) チャンダヤの給料をどう捻出するかが問題です。彼には、農園でカシューナッツの管理をすると同時に、各種の果実、野菜を栽培し、それらを売って給料分のお金を確保するように伝えてあります。しかし、農園の水道水は塩分を含み、作物には適しません。そこで、真水を取水できるほどのかなり深い井戸を掘ろうと計画しています。井戸掘り費用は40万円ほどです。どのように資金調達するかが来年度の課題です。

耕運機と新たな農園管理者チャンダヤ



雑草を根こそぎ掘り返した後



写真中央には、バナナの木、後方にはカシューナッツの木、手前右下には、新たに植樹したカシューナッツの苗と名札



農園管理者、チャンダヤ（日中は暑いので上半身裸で生活しています。）： 私たちは彼に期待しています。根っからの農民で、自宅は私(大岩)が教えているサバラガムワ大学の近くにあります。自宅から農園まではバスで10時間くらいかかりますので、農園に寝泊りしています。農園には家があり、住めるように昨年整備しました。スリランカの男は、子供が2人くらいできると、「元気で外がいい。」ではないですが、国内、国外を問わず、子供の教育費、家の建築費を求めて出稼ぎをします。